

さんいん 企業 物語

SAN-IN
COMPANY STORY

東洋ソーラー

4 循環型地域社会に貢献

【会社概要】
所在地 松江市北陵町46-5
営業種目 電気機械器具卸小売り業
代表取締役社長 藤原一美
従業員数 47人
電話番号 0852(28)1010

太陽光発電システムと蓄電池の販売・施工において山陰随一の実績を誇る東洋ソーラー(株)（松

江市北陵町、藤原一美社長）。経営を引き継いだ創業者の長男、藤原一美（51）は、時代にマッチ

した事業展開を図るとともに、メディア戦略や人材育成にも力を注ぎ、会社の存在感は大きく

増していった。

蓄電池販売をスタート

再生可能エネルギーの固定価格買取制度（FIT）終了を前に、太陽光発電システムに加えて、蓄電池の販売をいち早くスタートさせた一美の試みは当たった。補助金制度などを追いつきに受注を伸ばし、2018（平成30）年以降は年間200台を超える売り上げを記録。21（令和3）年からは、

「した」と一美。スマートフォンのアプリで操作でき、大容量なのにコストパフォーマンスに秀でたテスラ製は、顧客の選択肢を確実に増やせると考えた。さらに世界を席巻するメーカーと手を組むことで、自社のネームバリューアップも狙った。「立地や環境、お客さまのニーズによって最適な商品はさまざま。うちは国内メーカーのほぼ全てを取り扱っているので、多様なご期待に応えられるはず」。



テスラ製蓄電池の前に立つ藤原一美社長＝松江市北陵町、東洋ソーラー本社

アメリカのベンチャー企業「テスラ」の家庭用蓄電池を扱う山陰で唯一の認定販売施工会社になった。「海外企業で注目度の高い会社であり、蓄電池そのものの使い勝手の良さが決め手で



ドローンを活用したソーラーパネル点検も開始＝2022年4月

テスラ社認定販売施工会社に 環境エネルギー事業をけん引

背景に大規模災害停電

蓄電池の売り上げ急増の背景の一つには、相次ぐ大規模災害による停電があった。同社は21(同3)年、リフォームや新築を担う

グループ会社と提携して「オフグリッド」のモデル住宅をオープン。太陽光発電システムと蓄電池はもちろん、床下換気システムを備え、24時間自動で空調

管理ができる上、断水時に飲料水や生活水を確保する大容量のタンクシステムも設置した。防災とエネルギーに強い住宅は好評で、グループ会社の受注も増加した。

昨秋からは蓄電池や投光器などを備えた「防災タワー」の販売も開始。現在は、災害時などで電源喪失時、蓄電池や太陽光発電、EV車などから分電盤に向けて電気を送るシステムも設計中だ。

「BCPの観点からも非常時電源確保は重要」と需要を見込む。

PPAモデル 事業好調

無償で住宅や社屋などに太陽光パネルを設置する「PPAモデル事業」も好調だ。設置と契約期間中の維持管理に費用がかからないため、導入

ハードルが低いのが特徴。「今後電気代は上がる見込み。企業の脱炭素に向けた取り組みにも寄与するはず」と、数年前から準備を進めてきた。

昨秋から問い合わせが相次ぎ、今春から法人向けに営業を開始。商談の過程では、PPAではなく自社で設置する企業や、敷地以外に太陽光発電を設置する「オフサイトPPA」にも関心が集まっているという。

22(同4)年には、エネルギーの地産地消を目指して邑南町が設立した新電力会社「おおんきらりエネルギー株式会社」に参画。太陽光発電システムの設置から保守点検を担うとともに、培ってきた技能技術を邑南町の地元企業に伝え、地域活性化

化も支援する取り組みだ。既に20力所近くでPPA事業の取り組みが進んでおり、今秋以降運用開始の予定だ。

小水力発電所開設や、農業と発電事業を両立させる「ソーラーシェアリング」なども構想。

「人口が減少している中山間地でも、産業を生み出すことで雇用が生まれ、魅力的な地域になれば人も集まる。子どもや若者たちが住み続けたいと思える地域を創っていくのは、僕らの世代の責務だと考えています。地域と一体となって地域を發展させていく貴重なフィールドをいただし、感謝しています」

山陰の環境エネルギー事業をけん引してきた東洋ソーラー。来年迎える創業30周年を機に、推し進めようとしているのが地域の「オフグリッド化」だ。手始めに取り組み始めているのが、本社がある企業団地での電力自家消費。「まずは企業団地全体の電気を自給自足できる仕組みを



市民向けの勉強会を積極的に開催＝松江市内、2021年7月



蓄電池や投光器などを備えた「防災タワー」の販売も推進



邑南町の新電力会社設立に共同出資者として参画。右から2人目が藤原一美社長＝2022年2月

考えています。最終的には住宅まで広げ、邑南町のような町づくりができれば」

同社では、太陽光以外にも水力、風力、バイオマスなどのエネルギーにも着目し、ベンチャー企業や研究機関などの協力も進めている。カーボンニュートラル社会の実現に向け、エネルギー改革が待ったなしとされる中、地域活性化も見据えた東洋ソーラーの取り組みにますます目が離せない。

(文中敬称略)

—おわり—

(フリーライター・門脇奈津子)